

## つくば常民大学 3 月（第 30 回）

講師：昆 政明氏（神奈川大学特任教授）

題目：「霞ヶ浦の帆引き網漁と東京湾の打瀬網漁」

日時：2024 年 3 月 21 日（木）午後 1 時～3 時半

場所：つくば市二の宮交流センター

※今回は第 3 木曜日開催となります。

※参加自由・要資料（コピー）代

利根川流域の霞ヶ浦では現在でも観光目的に「帆引き網漁」が行われており、白い大きな帆に風を受け、遠くに望む筑波山を背景に湖面をすべる帆引き船の姿は、見る人に大きな感動を与えてくれます。漁船で網などの漁具を引いて行う漁を、一般には「船引き漁」あるいは「船引き網漁」といい、全国各地で同様の漁が行われています。その代表的な漁法が「打瀬網漁」といわれるもので、霞ヶ浦の帆引き網漁もそれと同じと考えられていました。

しかし、先人の研究により霞ヶ浦の帆引き網漁は、打瀬網漁とは全く異なる漁法で、明治時代に霞ヶ浦で開発された、他に類をみない漁法であることが分かってきました。今回はまず船引漁の概要を紹介し、打瀬網漁の中心地であった東京湾(江戸湾)と比較しながら、霞ヶ浦の帆引き漁の特徴について述べてみたいと思います。



霞ヶ浦の帆引き船、帆柱の部分に筑波山が見える。